

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 8 年 4 月 29 日

団体所在地 広島市安佐南区沼田町阿戸 649

団体の名称 森のようちえんまめとっこ

職・氏名 代表 石井千穂

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

- タケノコ掘り、七輪で調理・天ぷら
- アストラムラインでハンモックを買いに行き園舎の裏山に設置
- 森の中の沢遊び、沢登り、水晶探し
- 草花遊び（花冠、汁でお絵描きなど）
- マッチと小枝で火起こし、野外料理
- ナイフ、ノコギリ、剪定ばさみでものづくり
- モリアオガエルの卵、孵化を観察

【7月～9月】(夏季)

- 似島で年長お泊まり保育（海遊び、野外料理で夕食づくり、花火など）
- 裏山の竹で流しそうめん、近所の落ち葉掃き、栗を拾って栗ごはんづくり
- カニ、トカゲ、カエル、鶏などとの出逢い
- エゴの実の泡遊び、ヤマボウシ・ナツハゼの実を食べる
- 昆虫探し

【10月～12月】(秋季)

- 银杏拾い、アケビ・柿・サルナシ・ガマズミ・フユイチゴ・栗・むかご採り
- クサギ、どんぐりの草木染め
- ヒサカキの実でお化粧、ハロウィン遊び
- ひまわり畑散策、柿もぎ
- まめとっこランドづくり（森の整備）
- 養鶏場へいのちの学び遠足
- みつろうキャンドル、キャンドルホルダー

【1月～3月】(冬季)

（活動内容）・箇条書きで実施した内容を羅列

- 年長登山（秋冬で3山に登る）
- どんぐりでお絵描き、クチナシの実で色水
- 草木染めした布で図書袋を縫う（年長）
- 収穫した大根を調理して食べる
- 雪遊び（ソリ、雪だるま、雪合戦）
- 地獄の滑り台で斜面遊び、冒険
- 年長ふるまいデー（野外料理）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】



森の中にある、通称カエル池。ここには毎年初夏になるとモリアオガエルの卵塊と孵化の様子、オタマジャクシが見られる。今年もカエル池に何度も赴き、オタマジャクシが卵塊から池の水に出ていく瞬間を見たり、オタマジャクシをつかまえて遊んだりした。今年はほかに、カゲロウの幼虫も発見し、たくさんすくう。「すくう」と一口に言っても、素手でつかまえるのは難しい。慌てて水の中に手を入れると水の勢いごと逃げてしまう。手のひらを広げて水の中に入れて生き物の下でそっと手を揃えてお椀のように丸めて、つかまえる。

去年は自力でオタマジャクシをつかまえることができなかった年中Tくん、何度も挑戦するうちにつかまえられるようになった。転んで服が濡れて少し泣いても、あまり気にせず泣き止んだのは、自信がついたおかげかもしれない。

【7月～9月】



9月のある日、いつもの森に出かけたところ、鶏4羽を見つけた。おそらく捨てられたもの。当日は安全のために触らずに一日の保育を終えて帰ったのだが、このままにしていると熊やイノシシを呼び寄せてしまいこの場所の安全が脅かされるかもしれない。大人がいろいろ考えた上で園舎で保護することにした。

園舎で飼い続けられるのか、しばらく飼ってから食べるのか。大人がそんな葛藤や話し合いをし、こどもたちは登園すると園舎から鶏を出し、園庭で鶏を放し飼いしながらそのわきでままごとをするなど自然に鶏の存在を受け入れて普段どおり生活していた。残念ながらまめとっこで飼い続けることはできず、保護者の実家と近隣の園に引き取ってもらう結末となったが、いのちを引き受けることについて深く考える機会となった。

【10月～12月】



9月の鶏との出逢いと別れを経験し、鶏と私たちのいのちのつながりを知り感じるためにいのちの学び遠足として、パークアンドチキン江田島を訪問し、農場と鶏の解体を見学させていただいた。

平飼いの鶏舎を駆ける鶏を2羽確保していただき、その鶏を触る。羽の色、脚の色の違い、羽毛のあたたかさ。

その後、加工場へ戻り、その鶏のいのちをいただく瞬間からすべての工程を見させていただく。園児もスタッフも母たち（共同保育で保育側を担うこともある）も、見たい人だけ。いのちをいただく重みを感じるだろうと想像していたが、生き物から徐々に肉になっていく過程を見ているとちゃんと「おいしそう」と感じる。その後、BBQでその鶏の肉をみんなでおいしくいただく。食べるためにいのちをいただいて、そして生きる。大人が想像するよりも子どもたちはまっすぐたくましく世界を見ていることも感じられた。

【1月～3月】



まめとっこでは、年間を通して月2～3回ほど野外料理を行っている。マッチと杉葉と枯れ枝で火を起こし、ごはんと味噌汁をつくる。道具の準備と片付けも、大部分を子どもたち自らがやっている。

卒園間近の3月、最後の野外料理は「ふるまいデー」。年長さんが、一人ひとつ小さな火を起こし、みんなから預かった米を洗い水加減をして、自分の火で炊き上げる。その間、年中・年少の子たちは力を合わせて味噌汁を仕上げる。年長の6月にまめとっこに転園してきたMちゃんは、火起こしに苦戦しながらも、時間をかけて何とかごはんを炊き上げた。親子組を経てまめとっこに3年間通ったHくんは、少し戸惑う様子が見られたが火が消えそうになると枝を追加し息を吹きかけて、やりきった。

完成した頃、年長の母たちが食べにくる。自分の母へ、炊きあがったばかりのごはんをよそう。誇らしそうな表情が印象的だった。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

●職員の資質向上について（※保護者…当園では、保護者が月2回程度保育参加をしている）

- ・ ひろしま自然保育合宿ミーティングに代表と保護者が参加（5月）
- ・ 保育士対象発達障害児基礎研修会に、保護者が参加（6・10月）
- ・ 自然観察指導員講習会に、保護者が参加（6月）
- ・ 「どちらが必要？母性と父性」佐々木正美セミナーアーカイブを代表が受講（6月）
- ・ 赤十字救急講習を代表、スタッフ、保護者が受講（6・10月）
- ・ 森のようちえんリスクマネジメント研修「子どものセーフガーディング」を代表が受講（8月）
- ・ 映画「屋根の上に吹く風は」上映対話会に代表が参加（9月）
- ・ 森のようちえんかたりば「園の代表者集まれ！」に代表が参加（9月）
- ・ 第2回ひろしま自然保育資質向上研修 内田幸一さん講演会に代表が参加（9月）
- ・ 森のようちえん安全講座基礎講習会を代表と保護者が受講、専門講習会を代表が受講（9月）
- ・ 森のようちえん全国交流フォーラム in 青森に代表が参加（11月）
- ・ 森のようちえん大学校 in 岡山に代表と保護者が参加（11月）
- ・ 野外保育定例研修（定例会）、野外保育実地研修（大人のWS）を代表、スタッフ、保護者で自主開催
- ・ 感覚統合遊びワークショップを、代表・保護者で開催
- ・ ポークアンドチキン江田島へ、いのちの学び研修（12月）

●地域との関わりについて

- ・ 近隣地区の農家を訪れ、田んぼでの生き物探し、柿もぎをさせてもらう。
- ・ 近隣地区の協力者に敬老の日に寄せたてぬぐいを贈り、挨拶に伺う。
- ・ 園舎近くの地域の道路を、園児とともに掃き掃除をする。近隣の方が卒園式に向けて清掃をしてくださる。

●保護者との関わりについて

- ・ 定例会で、スタッフと保護者で保育や安全管理について意見交換やワークショップを行った。
- ・ 父親保育参加日を3回実施した。
- ・ 保護者・スタッフで登山の下見を3回行い、交流を兼ねてリスクマネジメントを学び合った。
- ・ 園舎周りの草刈りや伐採した木の枝の掃除を定期的に行った。
- ・ 活動後の誕生会や年末の宝探しなどを保護者が企画、運営した。
- ・ スタッフがスワッグ作りやしめ縄作りのワークショップを開催し、保護者とスタッフで参加した。

●その他

- ・ 園児（年少～年長）と未就園親子組の合同活動を開催し、より幅広い年齢層の子ども同士が森で関わる機会を作った。子ども同士はお互いの存在が刺激となり、親子組の保護者は森で力強く育つ年上の子ども達の姿や、ようちえんの保育方針を間近で見る機会となった。
- ・ ファミリーイベントを本年も地域のイベントとして開催した。スタッフ、保護者、園児それぞれが自然物を用いたお店を開き、園独自の通貨を作成してお店屋さんごっこを実施した。自然の恵みを地域の方々と共有する機会となった。

- ・ 個人、他団体、行政など多くの方から視察見学や取材申込みをいただき、取り組みやノウハウを積極的に伝えたり、情報交換したりした。

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

U R L	ホームページ、ブログ、各種 SNS へのリンク集 https://lit.link/mametokko
-------	---